

2025年度

日本環境化学会学会賞

授賞式・受賞講演

7月16日 **水** 13:00-16:15

やまぎん県民ホール（山形県山形市双葉町1-2-38）

第34回
環境化学
功績賞

13:45~14:30

「生態毒性研究と日本版WETシステムの軌跡：化学物質管理の未来に向けて」

受賞者：鑪迫典久

(愛媛大学大学院農学研究科 生物環境学科 教授)



化学物質による生態影響評価の手法としての生態毒性研究と、それに基づく日本版WET (Whole Effluent Toxicity) システム構築への私の取り組みについて紹介します。幾つかの生態毒性試験の標準化やEDCs研究、試験法の信頼性向上に努め、制度形成に貢献してきました。近年では、事業所での自主的なWET導入も進みつつあり、日本独自のWETシステムの確立が期待されています。実際の事業所の例、研究とシステム構築の経験をもとに、化学物質管理の今後の展望について考察したいと思います。

第34回
環境化学
学術賞

14:45~15:30

「物質フロー・環境動態モデルによる廃棄物管理施策の評価」

受賞者：平井康宏

(京都大学 環境安全保健機構 環境管理部門 部門長・教授)



循環型社会を実現するためには、社会経済活動におけるモノの流れを的確にとらえ、これに伴う化学物質の環境への排出とその後の自然環境・生態系における挙動を把握し、資源の有効活用と環境リスクの制御の両側面から適切な資源循環を設計することが有用です。生ごみ、防腐処理木材、PCB、短鎖塩素化パラフィン、PFAS、バイオプラスチック、実験廃液などを事例に、これまでの取り組みを紹介します。

第34回
環境化学
学術賞

15:30~16:15

「水環境における微量有機汚染物質の動態把握とその動態を指標とした流域評価：環境鑑識」

受賞者：中田典秀

(神奈川大学化学生命学部応用化学科 准教授)



フィールド調査と質量分析を基盤とした定性・定量分析をもとに、特に生物生理活性を有する微量有機汚染物質の水環境中の動態把握と、その動態を指標とした流域内の人口や汚水処理に関する情報推定などを遂行してきた。国内外でのフィールド調査、一致する場合もあるが逆に乖離が生じることもあった環境試料中の活性値と定量結果との比較、定量値をもとにした流域評価など、多くの運に恵まれ実施してきた研究の成果を紹介したい。